



2020/11/06 第22回図書館総合展online

# 社会科学データアーカイブと CiNii Researchへの期待

三輪 哲  
(東京大学社会科学研究所)



Center for Social Research and Data Archives,  
Institute of Social Science, The University of Tokyo



Social Science Japan Data Archive

# 我々が扱うのは、社会調査データ

	ZQ07A	ZQ07B	ZQ07C	ZQ07D	ZQ07E	ZQ07F	ZQ07G
1	2	3	1	2	2	4	4
2	2	2	2	4	1	2	3
3	2	3	3	2	4	2	4
4	1	2	2	2	1	2	4
5	3	2	3	4	3	1	4
6	2	2	2	3	2	4	3
7	2	3	4	2	2	2	3
8	2	4	5	4	1	1	4
9	2	3	4	1	2	2	3
10	2	2	5	3	2	2	4
11	2	2	5	3	1	3	3
12	3	2	2	2	2	3	1
13	2	4	4	4	3	3	4
14	2	3	4	2	3	4	4
15	1	3	5	2	2	1	4

問7. 現在（または直近）のお仕事に関して、次にあげるAからGのそれぞれについて、あてはまる程度をお答えください。（〇はそれぞれにつき1つ）

	かなりあてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	部下はいいない
A. 自分の仕事のペースを、自分で決めたり変えたりすることができる	1	2	3	4	X
B. 職場の仕事のやり方を、自分で決めたり変えたりすることができる	1	2	3	4	
C. 部下の仕事のやり方を、自分が決めている	1	2	3	4	5
D. 教育訓練を受ける機会がある	1	2	3	4	X
E. 仕事を通じて職業能力を高める機会がある	1	2	3	4	
F. 子育て・家事・勉強など自分の生活の必要にあわせて、時間を短くしたり休みを取るなど、仕事を調整しやすい職場である	1	2	3	4	
G. 今後1年間に失業(倒産を含む)をする可能性がある	1	2	3	4	

## あなたのふだんの生活についておうかがいします。

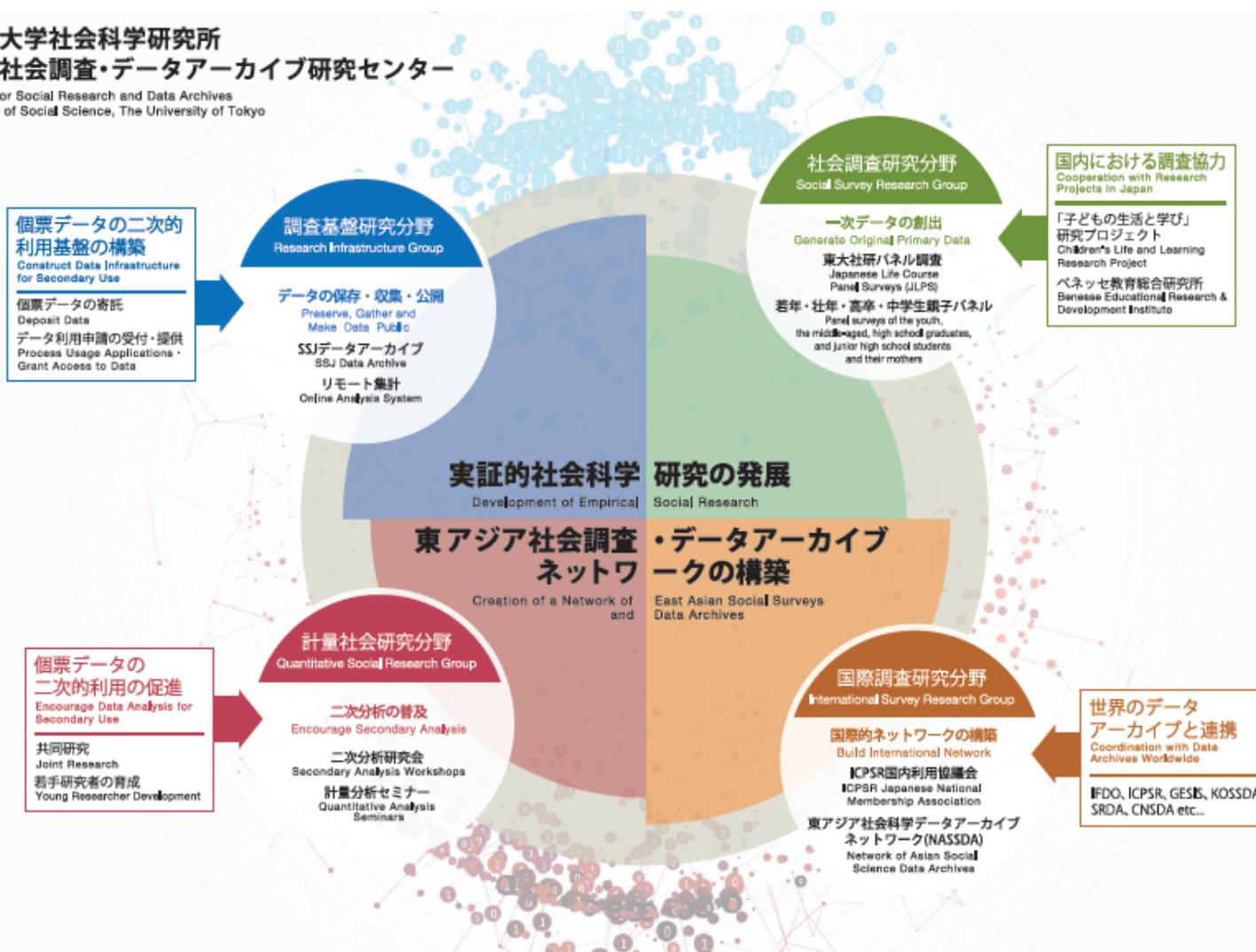
問8. あなたはどのくらいの頻度で以下のことをしていますか。（〇はそれぞれにつき1つ）

	毎日	週に5~6日	週に3~4日	週に1~2日	月に1~3日	ほとんどしない
A. 運動（ウォーキング・ジョギング・エアロビクス・水泳・テニスなど）	1	2	3	4	5	6
B. 1日に3食を食べる	1	2	3	4	5	6
C. 栄養バランスの取れた食事を取る	1	2	3	4	5	6
D. カップ麺やファーストフードを食べる	1	2	3	4	5	6
E. 食事の用意	1	2	3	4	5	6
F. 洗濯	1	2	3	4	5	6
G. 家の掃除	1	2	3	4	5	6
H. 日用品・食料品の買い物	1	2	3	4	5	6
I. 友人・恋人（配偶者は除く）と食事をする	1	2	3	4	5	6
J. 友人・恋人（配偶者は除く）と話をする	1	2	3	4	5	6
K. インターネットを利用する（仕事以外で）	1	2	3	4	5	6

# 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターの4つの研究分野

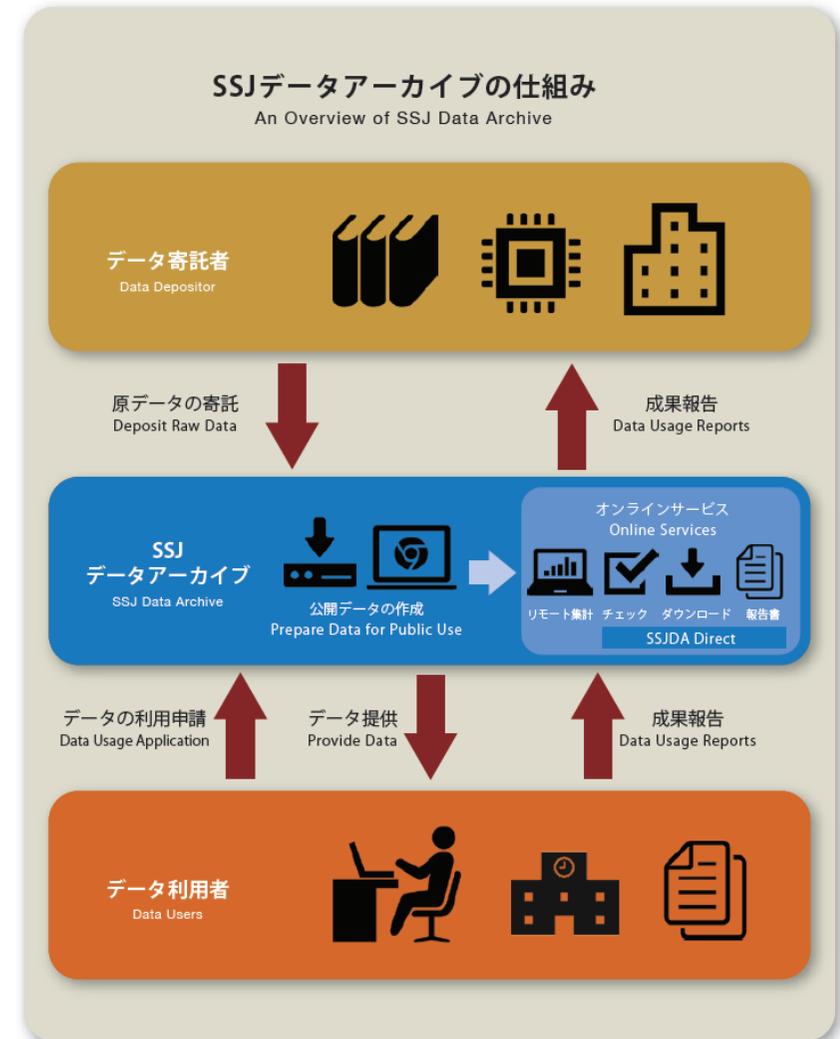
## 東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター

Center for Social Research and Data Archives  
Institute of Social Science, The University of Tokyo

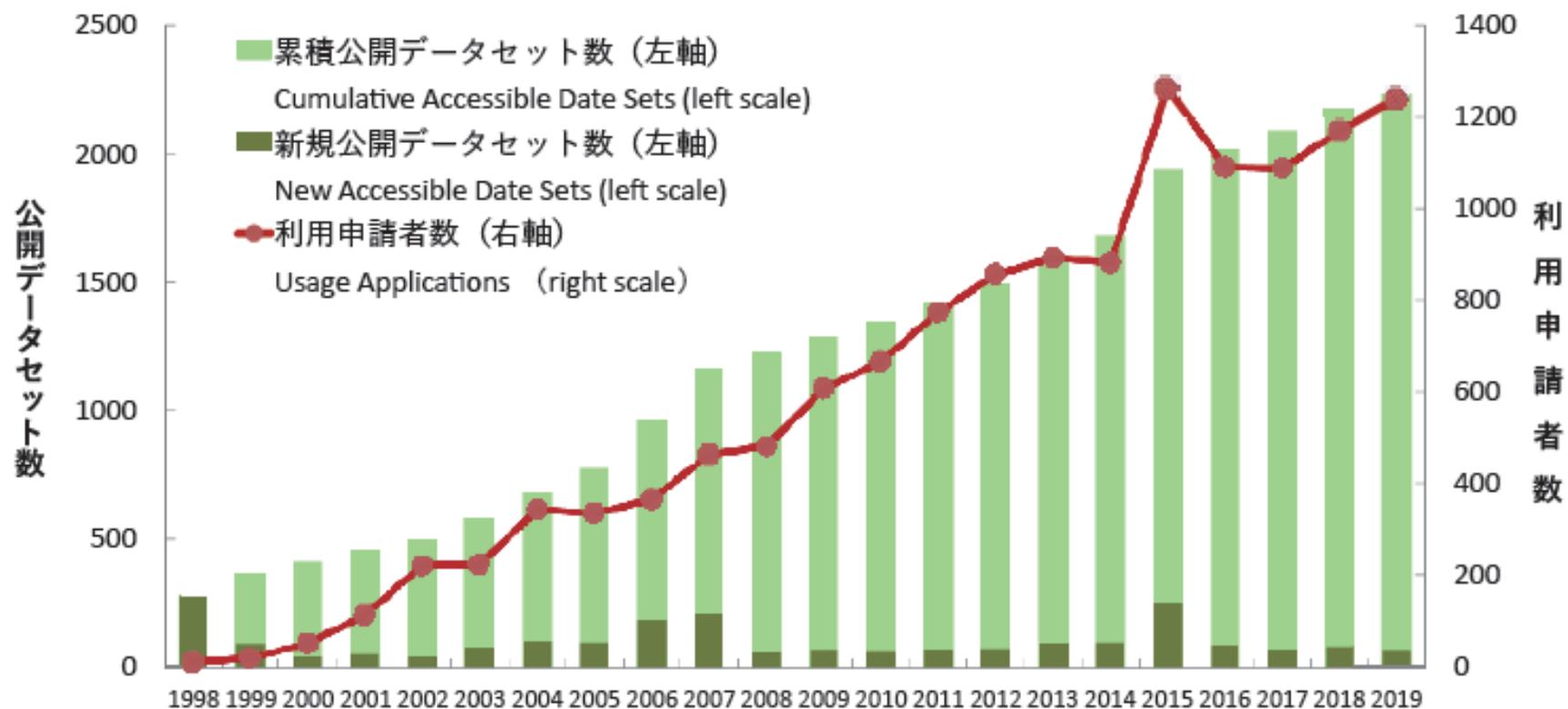


# SSJデータアーカイブ設置の目的

- 社会調査データの散逸を防ぐ  
SPSS形式の他、テキストデータで保存  
長期保存のためのバックアップ体制
- 社会調査データを学術的共有財産とする  
二次分析での研究利用を促進する  
データを活かした教育の利用を広める
- 分析の再現性を担保する  
国際学術誌では必須になりつつある



# SSJデータアーカイブの研究・教育利用



## 公開データ

- › これまでに150以上の機関・組織・研究者（代表者）から寄託をうけた
- › 2000以上のデータセットを公開・提供
  - JLPS（働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査）
  - SSM（社会階層と社会移動全国調査）
  - JES（投票行動の全国的・時系列的調査研究）
  - 全国就業実態パネル調査（リクルートワークス研究所）
  - 学校教育に対する保護者の意識調査（ベネッセ教育総合研究所）
  - 日本人の意識調査（NHK放送文化研究所）
  - 食育に関する意識調査（農林水産省）
  - 仕事と育児の両立に関する実態把握のための調査（厚生労働省）

など



CSRDA



Social Science Japan Data Archive

# CSRDAトップページ

<https://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/>

The screenshot shows the CSRDA website homepage. At the top, there is a navigation bar with the CSRDA logo, the text '東京大学 社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター', and the SSJDA logo. The main header features a grid of colorful icons and the text 'Center for Social Research and Data Archives'. Below this is a row of five buttons: '探す' (Search), '利用する SSJDA Direct' (Use SSJDA Direct), '分析する Nesstar' (Analyze Nesstar), '学ぶ' (Learn), and '寄託する' (Deposit). A notice below the buttons reads: '※SSJDAのデータを初めてご利用される方はこちら。' (For those using SSJDA data for the first time, please click here). The main content area is divided into two columns. The left column is titled 'センターからのお知らせ' (Center News) and contains three items: a link to a survey report, a notice about SSJDA service suspension from July 30 to August 19, 2020, and a notice about activity restrictions on campus due to COVID-19. The right column is titled 'SSJDAデータ公開情報' (SSJDA Data Release Information) and contains two items: a release of ICJR data from 2012 and a release of a survey from 1965. At the bottom, there are two boxes for 'ICPSR 国内利用協議会のご案内' and '社研メールニュースのご案内'. The footer contains contact information, a site map, a privacy policy, and a copyright notice: 'Copyright © 2013 © CSRDA committee. All Rights Reserved.'

# データを探す



[English](#)

東京大学社会科学研究所  
附属社会調査・データアーカイブ研究センター

データ検索

概要全文: <input type="text"/>	調査名: <input type="text"/>
寄託者名: <input type="text"/>	調査年: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
トピック (詳細は <a href="#">こちら</a> ): 指定なし	調査対象の単位 (詳細は <a href="#">こちら</a> ): 指定なし
	教育目的利用 指定なし
表示順 調査番号(昇順)	
<input type="button" value="検索"/> <input type="button" value="内容をクリア"/>	

\* 調査名をクリックしますと、データの概要が表示されます

<< < 1 2 3 4 5 6 7 > >> 全1415件

- データ一覧 -				
調査番号	調査名	寄託者 (寄託時名称)	トピック	Nesstar
0001	<a href="#">新規卒業者(中卒)労働市場調査, 1953</a>	東京大学社会科学研究所	雇用・労働	--
0002	<a href="#">中小企業における賃金決定の実態に関する調査, 1995</a>	連合総合生活開発研究所	雇用・労働	--
0003	<a href="#">若年労働者のキャリアと学習歴に関する調査, 1995</a>	連合総合生活開発研究所	教育・学習 雇用・労働	--
0004	<a href="#">小学生・中学生の生活に関するアンケート調査, 1995</a>	連合総合生活開発研究所	社会・文化 教育・学習	--
0005	<a href="#">ボランティア活動についてのアンケート調査, 1995</a>	連合総合生活開発研究所	社会・文化 安全・犯罪・災害	--
0006	<a href="#">勤続5年以上の女性労働者のキャリア形成と人事処遇の運用実態に関する調査, 1995</a>	連合総合生活開発研究所	雇用・労働	--



# メタデータ

概要	
調査番号	0001
調査名	新規学卒者（中卒）労働市場調査，1953
寄託者	東京大学社会科学研究所
利用申込先・承認手続き	利用方法の詳細は <a href="#">こちら</a> SSJDAが利用申請を承認したときに利用できる
教育目的(授業など)の利用	研究のみ
利用期限	一年間
データ提供方法	ダウンロード
メタデータ閲覧・オンライン分析システムNesstar	利用不可
調査の概要	<p>新制中学校卒業生と日本の産業の現在および将来がいかにかわり合うかという問題を、「一国の資本の蓄積量」と「方向」、産業と学校・技能教育の関係、社会階層の特殊的な生活水準と生活慣習、とくに農民層の分解、「家事労働の職業労働化」、「未就業失業問題と低賃金産業問題」＝「産業予備軍の存在形態」の諸観点から分析し、産業別・規模別・地域別労働市場の類型化をおこなう。</p> <p>調査の結論は次のとおりである。神奈川県中卒(男子)労働力の市場は、3階層・5地域——A. 最上層＝「全県をおおう京浜地区労働市場」。B. 第2階層＝「横浜地区」、「湘南諸都市を中心とする中部地区」、小田原市を中心とする「西部地区」。C. 最下層＝高座・荻甲・津久井郡にまたがる「農村地区」——からなる構造をもっており、労働移動は、各地域市場間では主として3階層間で——C→A, B→Aという「直接型」と、C→B→Aという「連鎖型」の2型をとって——おこなわれる。こうした「労働移動の契機」になるのは、賃金に集中的に表現される労働条件の相対的格差であって、その背景に、地域別の産業構造、企業規模別構造の相異がある。女子中卒者の労働市場は、「地域的封鎖性」が大きく、京浜地区労働市場も全県をおおうものになっていない点で男子のそれと異なる。また、いずれの地域でも女子の初任給は男子より低く、地域別格差は男子より大きく、分散もまた大きい。</p>
調査対象	神奈川県公立中学校1953年3月卒業生全員（188校男約20,000名，女約19,000名）
調査対象の単位	個人・組織
サンプルサイズ	「調査対象」参照
調査時点	1953/07/01
調査地域	神奈川県
標本抽出	
調査方法	神奈川県および神奈川県教育委員会の名で各学校に調査票（甲・乙・丙・丁）を配布し、学校ごとに就職指導教員に記入を依頼（1953年10月31日）し、11月30日に回収した。さらに「個人別調査票」をもって、若干の地域で、生徒の自宅を訪問し、面接、記入した。
調査実施者	労働問題調査研究会(大河内一男，氏原正治郎，江口英一，関谷耕一，高梨昌)
委託者(経費)	文部省科学研究費，神奈川県企画審議室専門委員調査費
寄託時の関連報告書・関連論文	<p>神奈川県編，氏原正治郎・江口英一・高梨昌・関谷耕一稿『労働力需給調査報告書』（神奈川県，1955年3月，418頁，非売品）</p> <p>大河内一男・氏原正治郎編，江口英一・氏原正治郎・高梨昌・関谷耕一稿『労働市場の研究——中学校卒業生の就職問題』（1955年9月，東京大学出版会，411頁）</p> <p>神奈川県企画審議課編『昭和28年新規中学校卒業者の就職状況調査(集計結果発表)』（1954年2月，非売品）</p> <p>氏原正治郎・中西洋稿『神奈川県における新規学卒者労働市場の変貌』（『社会科学研究』14巻3・4合併号，1962年12月所収）</p> <p>中西洋稿「『労働市場の研究』について」（『社会科学研究』第22巻5・6合併号，1971年）</p>
SSJDAデータ貸出による二次成果物	二次成果物一覧は <a href="#">こちら</a>
調査票・コードブック・集計表など	<a href="#">【調査票】</a>
主要調査事項	出身地域，生家の職業，進学就職状況，就職先(産業・規模・地域・労働条件) など
公開年月日	1998/04/01



# 調査票

## 調査票

調査番号 0001

調査名 新規学卒者(中卒)労働市場調査, 1953

### 新規学卒者に関する調査票（甲票）

神奈川県・神奈川県教育委員会

学校名 校長名 記入責任者名

1. この学校の昭和27年度卒業生（昭和28年3月卒業の者）について7月1日現在の状況を記入して下さい。

	(1) 卒業生数	(2) 就職せず進学したもの (通常課程) 注1	(3) 就職しながら進学したもの (定時制高校) 注2	(4) 就職したもの (注3に該当するものを除く)	(5) 就職せず自家に止まって家の手伝いや家事などをしながら進んでいるもの	(6) 就職も進学もせず、自家に止まって家の手伝いや家事などをしているもの	(7) その他
男							
女							
計							

2. この学校の学区の特徴を職業的・産業的・地域的見地から具体的に書いて下さい。なお一般的にいつて生活状態は上なのか下なのか等を書いて下さい。

3. この学校が就職問題についてとって来た方針やその成果及び将来考えていること、その他意見や希望等を具体的に書いて下さい。なお保護者、PTAと求人側（職安を含む）との連絡、職業指導などについても問題があれば書いて下さい。

※なお就職問題の資料及びこの学校や学区の概要を知るための資料となるものがあれば大小を問わず添付して下さい。

【編者注】この票の注は、「新規学卒者の卒業後の動向調査要綱」の、同一ナンバーの項に示されている。乙票丙票とも同じ。

# 集計表

《留置集計表A》 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブ  
■ 調査番号 0764  
■ 調査名 2005年SSM日本調査, 2005  
※ 本集計表を引用する際には出典を明記して下さい。

## 留置 A 票

問1 あなたは、次のような不公平が今の日本社会にあると思いますか。

ア) 性別による不公平

	ケース数	%	累積%
1 大いにある	170	6.0	6.0
2 ある	1402	49.6	55.6
3 あまりない	856	30.3	85.9
4 ない	259	9.2	95.0
9 DK,NA	140	5.0	100.0
合計	2827	100.0	

イ) 年齢による不公平

	ケース数	%	累積%
1 大いにある	243	8.6	8.6
2 ある	1387	49.1	57.7
3 あまりない	831	29.4	87.1
4 ない	223	7.9	94.9
9 DK,NA	143	5.1	100.0
合計	2827	100.0	

ウ) 学歴による不公平

	ケース数	%	累積%
1 大いにある	424	15.0	15.0
2 ある	1613	57.1	72.1
3 あまりない	536	19.0	91.0
4 ない	139	4.9	95.9
9 DK,NA	115	4.1	100.0
合計	2827	100.0	

# 二次分析の成果

- 成果物一覧 -				
成果物名(タイトル)	著者名	雑誌名・書籍名・出版社名など	発表年月	利用調査番号
二重負担を受容する有配偶女性の意識の規定要因：全国調査SSP2015を用いた資源の影響の検証	樋口麻里	北海道大学文学研究院紀要	2020/03	<a href="#">0763</a> <a href="#">0764</a>
大学進学における地域間格差と資金プレミアム—大学収容率の地域間格差に注目して—	赤木邦江, 江刺紀理, 田中善行, 勇上和史	経済政策ジャーナル 第16巻第1号 (通巻第81号)	2019/09	<a href="#">0763</a> <a href="#">0764</a>
女性の結婚による離職のコーホート分析	田中西	社会学年報(48)	2019/08	<a href="#">0763</a> <a href="#">0764</a>
The Mechanism of Generational Reproduction in Japan Mediated by the Major Taken During Secondary Education: An analysis of class mobility using conditional multinomial logistic regression	Masahiro Narisawa	ICAS11	2019/07	<a href="#">0763</a> <a href="#">0764</a>
Intergenerational income mobility and health: A quasi-experimental approach	Shohei Okamoto, Mauricio Avendano, Ichiro Kawachi	Social Science & Medicine	2019/04	<a href="#">0500</a> <a href="#">0550</a> <a href="#">0600</a> <a href="#">0800</a> <a href="#">0760</a> <a href="#">0761</a> <a href="#">0762</a> <a href="#">0763</a> <a href="#">0764</a> <a href="#">0850</a> <a href="#">1000</a>
学校外教育投資に対する母親の団体加入—ダブルハードルモデルを用いた分析—	米田佑	先端教育研究実践センター年報 第19号	2019/03	<a href="#">0764</a>
岐路に立つ自営業——専門職の拡大と行方	仲修平	勁草書房	2018/11	<a href="#">0200</a> <a href="#">0500</a> <a href="#">0550</a> <a href="#">0600</a> <a href="#">0800</a> <a href="#">0759</a> <a href="#">0760</a> <a href="#">0761</a> <a href="#">0762</a> <a href="#">0763</a> <a href="#">0764</a> <a href="#">0850</a> <a href="#">1000</a>
世代間における子供の所得水準を決定する要因：マルチレベル・モデルでの実証分析	細井雅代	追手門経済論集, 53(1)	2018/09	<a href="#">0764</a>
男女の職業分離の要因と結果	山口一男	『働き方の男女不平等』日本経済出版社	2017/08	<a href="#">0763</a> <a href="#">0764</a>



## 「データを探す」という観点におけるSSJDAの課題

- (1) キーワードが粗く、体系化がなされていない  
⇒ 海外での分類枠組みを参考に整備中
- (2) メタデータの規格が独自で、比較可能性に欠ける  
⇒ JDCatへの掲載に協力するなかでDDI対応するよう作成中
- (3) 研究データから成果物（論文など）やその著者を見つけることはできるが、その逆はできない
- (4) 社会科学の研究コミュニティ以外での認知度は低い

## CiNii Researchへの期待

### › 情報のリンクは非常に魅力的

研究費の情報や、研究者、論文の情報からデータを見つけることができ、前述の課題(3)を解決しうる

### › 分野横断的な情報検索が新たな知の源泉に

前述の課題(4)が克服され、社会科学のデータを別領域の研究者が利用したり、あるいは学際的・融合的な研究が促進されうる

### › さらなる期待

- 英語で書かれた論文、書籍をどこまでカバーできるか
- 日本社会を対象とした研究成果をカバーできるか
- 分野が違くと用語も変わるなか、どれだけ効率的に情報を調べられるか



CSRDA



Social Science Japan Data Archive